

1. 略歴

1989 年 3 月	東京大学文学部国語学専修課程卒業
1991 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程修了
1993 年 3 月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程中退
1993 年 4 月	明海大学外国語学部日本語学科専任講師（～1996 年 3 月）
1996 年 4 月	茨城大学人文学部人文学科専任講師（～1997 年 9 月）
1997 年 10 月	茨城大学人文学部人文学科助教授（～2003 年 3 月）
2003 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部助教授
2007 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授
2018 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授（～現在に至る）

2. 主な研究活動

a 専門分野

国語学

b 研究課題

日本語音韻史・日本漢字音史・日本韻学史を、主な専門領域とする。古代日本における外国語研究の二本の柱、すなわち漢字音韻学（中国語学）・悉曇学（梵語学）の学史的 연구를、主要な研究領域とする。先人の残したさまざまな記録を元に、江戸時代以前の日本における、音声観察・音声分類の発達および変遷を解明することを目指す。これらの研究成果と連動させつつ、漢字音の日本化の問題、拗音分布の偏在性についての歴史的解釈、濁音の起源（連濁現象の起源）についての考察など、音韻史分野にも研究対象を拡張し、着実に成果を上げている。近年の課題としては、国語音・漢字音（呉音系字音、漢音系字音、唐音系字音）・梵語音を総合する、日本語音節バリエーションの歴史を明らかにすることを目指している。

c 概要と自己評価

論文「悉曇学者行智の江戸語音声観察—ハ行音の場合—」においては、インド本来の梵語の発音を復元するために、まず比較言語的な手法を用いて古代中国語の発音を復元し、それにより梵語の音訳漢字を読むことを提唱した、江戸時代のユニークな悉曇学者・行智の、江戸語ハ行音の音声観察について、他の江戸期音韻学のハ行音観察と比較しながら分析した。行智の緻密な音声観察が、梵字の 39 種の子音を発音し分けるといふ、悉曇学上の必要から生じたものであり、伝統的な五十音図的な枠組みを解体し、ハ行音を「ハヒホウヘホ」と「ファフィフフェフォ」の二行の混交体であることを江戸時代の段階で指摘していたことは大いに注目される。

論文「漢字音の拗音と外来語の拗音」においては、漢字音の拗音と外来語の拗音の日本語への受容の仕方を整理し、漢字音の場合は開拗音 2 単位的・合拗音 1 単位的、外来語の場合は開拗音 1 単位的・合拗音 2 単位的というように、受容の仕方が逆転したことを指摘し、その背後には、室町時代に至るまでに起こった音節組織の組み換え（アヤワ三行の統合・CVu 音節の長母音化・開拗音の定着・合拗音の整理）という日本語音韻史上の重大な転換があったことを述べた。

発表「石山寺本守護国界主陀羅尼経長保頃点の漢字音」においては、当該資料が開拗音・合拗音を仮名で表記する場合に、すべて直音表記をするという、類例のない特異な資料であることを確認した。一方、同筆の類音注の場合には、開拗音・合拗音ともに拗音を表す音注が選択されているので、直音表記は単なる表記上の問題であり、区別はできていたと考えられる。この類音注は、合拗音はカ行・ガ行のア段・イ段・エ段でのみ直拗が一致しており、つまりは中国原音ではなく、日本漢字音を前提とした和製の類音注ということになる。先の論文の見通しとは異なり、かつては開拗音も合拗音も 1 単位的に受容する方式も存在したのであり、これは後世に継承されることなく途絶えてしまった受容方式であることを指摘した。

文献資料の調査と理論的な考察の双方を、バランスよく進めてゆくことを目指す方針が、順調に推し進められたと考える。今後、コロナ禍により中断している社寺における文献資料の調査を継続的に進め、その成果を順次公開していくことを目指したい。

d 主要業績

(1) 論文

肥爪周二、「悉曇学者行智の江戸語音声観察—ハ行音の場合—」、『近代語研究』、22、115-136 頁、2021.3

肥爪周二、「漢字音の拗音と外来語の拗音」、『日本語学論集』、18、17-27 頁、2022.3

(2) 学会発表

国内、肥爪周二、「石山寺本守護国界主陀羅尼経長保頃点の漢字音」、訓点語学会、オンライン、2020.10.18

国内、肥爪周二、「借用語音韻論からみた拗音の変遷」、愛知県立大学国文学会、オンライン、2021.6.19

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、立教大学、「文学」、2020.4～2022.3

非常勤講師、國學院大學、「日本語音韻史」、2020.4～2022.3

(2) 学会

国内、日本語学会、選挙管理委員長、2020.1～2021.5、評議員、2020.4～2022.3

国内、訓点語学会、運営委員、2020.4～2021.3、編輯主任、2020.4～2021.3、運営委員長、2021.4～2022.3

国内、東方学会、学術委員、2021.6～2022.3